

研究ノート

劇場におけるアフリカの民族舞踊
—ガーナの民族舞踊公演を事例として—遠藤 保子*
松田 凡**
相原 進***

日本ではアフリカの民族舞踊に直接触れる機会が少ないという現状を踏まえて、遠藤と松田は、舞踊そのものを紹介しようとボランティア組織であるエチオプス・アート日本委員会を結成し、これまでに日本にアフリカの民族舞踊団を招聘し、民族舞踊公演（1997年と1999年、エチオピア、2003年と2006年、ケニア、2008年、タンザニア）を実施してきた。そして2011年、西アフリカのガーナ共和国（以下ガーナ）からアゾロオ民族舞踊団を日本へ招聘し民族舞踊公演を実施した。その目的は、1. ガーナの文化的多様性を日本各地で紹介すること、2. ガーナと日本との国際・文化交流、相互理解、平和友好の一助に資すること、3. 舞踊の新しい隆盛に貢献すること、である。舞踊公演は、「舞踊まるごと体験」（ガーナの舞踊と自然・社会・文化を観る・知る・体験する）をキーワードに実施した。本稿では、この民族舞踊公演をもとに、どのように民族舞踊公演を開催したのか、を詳細に検討し、舞踊公演は、両者の国際・文化交流、相互理解、平和友好に役立てることができたことを報告する。

キーワード：民族舞踊，ガーナ，国際交流・相互理解

はじめに

遠藤と松田は、これまでアフリカの舞踊や社会に関する文化人類学的な研究を行ない、学会において研究発表を行い、単行本、学会誌、新聞などに研究成果を公表してきた。また、日本ではアフリカの民族舞踊に直接触れる機会が少ないという現状を踏まえて、舞踊そのものを紹

介しようと、ボランティア組織であるエチオプス・アート日本委員会¹⁾を結成し、アフリカの民族舞踊団を日本へ招聘して、各地の「劇場」で舞踊公演を行い、また反対に日本人舞踊家や学生による舞踊団を組織してエチオピアへ赴き、エチオピア国立劇場などで舞踊公演を実施してきた。そして、エチオプス・アート日本委員会がかかわった日本の劇場におけるアフリカの民族舞踊公演（東アフリカのエチオピア、ケニア、タンザニア）を対象に、以下の点をもとに論文として公表した：1. 劇場でアフリカの舞踊公演を行う意味とは何か、2. どのように公演を行ったか、3. どのような結果になった

* 立命館大学産業社会学部教授

** 京都文教大学人間学部教授

*** 立命館大学非常勤講師

のか、を明らかにするために、Ⅰ 日本におけるアフリカの民族舞踊公演の現状²⁾、Ⅱ 民族舞踊公演の目的と意義、Ⅲ 劇場における民族舞踊、Ⅳ 民族舞踊公演の実際（エチオピア、ケニア、タンザニア）を考察し、今後はアフリカでも西アフリカの舞踊を紹介する計画であることを報告した（遠藤・松田 2011：27～48）。

こうした流れを踏まえて、本稿では、2011年11月、宇治市文化センターで開催したアゾルオ・ガーナ民族舞踊団日本公演2011「カカオの国からやってきたドラムとダンス」Adzorwo Music and Dance Ensemble Japan Tour 2011に焦点をあてて以下を検討する：Ⅰ 民族舞踊公演の目的・意義・演目 Ⅱ ガーナの概観 Ⅲ 民族舞踊公演の実際 Ⅳ 舞踊公演の評価 Ⅴ まとめ。

なお、民族舞踊公演の目的・意義は、上述した論文内容と重複する部分もあるが、省略することはできないため、可能な限り簡潔にまとめて記載するように心掛けた。

Ⅰ ガーナの民族舞踊公演の目的・意義・演目

Ⅰ・1 目的

エチオプス・アート日本委員会では、ガーナの民族舞踊の公演を行う目的を次のように考えた：

1. ガーナの文化的多様性を日本各地で紹介すること
2. ガーナと日本との国際・文化交流、相互理解、平和友好の一助に資すること
3. 舞踊の新しい隆盛に貢献すること

文化の相違を身体のリズミカルな動きによってシンボリックに表現する民族舞踊は、見るものにその国の美しさやエネルギー、世界観や思

考法を体感させる格好の媒体だと考えられる。アフリカといえば、飢餓、難民、開発途上国として、あるいは野生動物の地としてのイメージが浮かんでくるかもしれない。だが、文化や社会と密接にかかわって伝承されてきたガーナの舞踊や音楽は、上述したようなステレオタイプ化したイメージではない別の面を見せてくれる。

Ⅰ・2 意義

日本においてアフリカ、特にガーナの民族舞踊の公演を行う意義は、以下を指摘することができる：1. アフリカの文化的多様性を紹介する機会をつくり、舞踊や音楽を実際に聴き、観て、感じることによって、お互いの文化交流、相互理解、平和友好に役立てることである。2. 無文字社会であったアフリカにおいて、人々は文字に記すよりも、舞踊や音楽によって様々なことを表現してきた。そのような社会における舞踊や音楽を知ることは、その原点を推測できることである。3. アフリカでも特に西アフリカ（ガーナやナイジェリアなど）の舞踊は、ジャズやストリートダンスに深くかかわっているため、それらを深化して知る上でも重要である。

Ⅰ・3 演目

ガーナにおいては、様々な民族がいて、それぞれの民族の舞踊が踊られている。では、それらをどのようにして選択し、どのように公演を実施するのか。エチオプス・アート日本委員会では、以下の点に留意しながら民族舞踊を抽出した：

1. ガーナにおける様々な民族舞踊を検討し、その多様性を紹介することを基本にする。
2. 上記1と関連するが、特定の民族舞踊に

集中しないように心がける。

3. 舞踊動作の特性に留意し、それがよりよく見えるように舞踊家の配置などを考慮する。

4. 化粧、衣装、照明などによって公演演目にあふさわしい雰囲気をつくる。

5. 舞踊の背景としてのガーナの自然・社会・文化が理解できるような工夫をする。具体的には、舞踊演目の合間に様々な解説(舞踊動作が自然環境や社会環境を反映していることやどのような時に踊られているのかなど)を行い、可能であれば、現地の人々の暮らしを映像で紹介する。

6. 舞踊家と観客とが一体感を味わえるようにする。具体的には、舞踊家や音楽家が舞台から観客席へ、また観客席から舞台へ入退場する過程で、両者のコミュニケーションを円滑にする。

7. 集団で自らが踊るといふ本来の舞踊を劇場で再現する。具体的には、ワークショップの時間を設け、観客が実際に踊り、楽器を演奏し、歌う機会を設ける。

8. 上記5と関連するが、舞台だけではなく会場全体を舞台の延長ととらえ、舞踊と社会が理解しやすいように写真、絵画、動く映像、あるいは生活雑貨、楽器、小道具などを展示する。

9. ガーナの社会・文化が、日本と様々な面においてかかわっていることを紹介する。その例として、公演では、ガーナの民族楽器アサラトを使い、日本で独自に演奏法を発展させたパフォーマンスグループ「鴨印振族」による演奏を披露した。また、西アフリカの舞踊がストリートダンスと深くかかわっていることを踏まえて、ブレイクダンスに近い動作を含むガーナの舞踊と、子どもたちによるストリートダンスを

続けて上演することで、舞台上で両者の動作比較ができるようにした。

上記をもとに「舞踊まるごと体験」(ガーナの舞踊と自然・社会・文化を観る・知る・体験する)をキーワードに舞踊公演を実施した。公演の所要時間は、2時間を基本に考えながら、その中に休憩時間と以下の点を加えた: 1. アフリカの代表的な楽器である太鼓と和太鼓の音色や演奏法の比較ができるように和太鼓の演奏及び和太鼓演奏とガーナの民族舞踊団とのコラボレーション 2. 舞台公演終了後、ロビーにおいて観客との交流とワークショップ(舞踊実践と太鼓演奏)。さらに、ガーナの舞踊は、ナイジェリアの舞踊をもとに発展させたものもあるため、舞踊団の招聘時に、ナイジェリアのベニン大学リサーチ・アシスタント(舞踊研究者兼舞踊家)であるJ.Abbeを招聘し、ナイジェリア本来の舞踊の動きやその意味などに関して聞き取り調査を行い、また公演のステージマネジメントに関する助言を依頼した。

II ガーナ概観

ガーナの舞踊を紹介する前に、ガーナという国を以下の点から概観したい(地図参照)。



図1 ガーナの地図

II・1 面積は、23万8537平方キロメートル (日本の約3分の2) である。

II・2 人口は、約2422万人 (2010年国勢調査) である。

II・3 地理は、以下である。北緯11度10分～北緯4度40分、東経1度10分～西経4度40分。アフリカ大陸の西部、赤道から750キロ北に位置している。首都アクラは、北緯5度30分の位置にある。南は南大西洋 (ギニア湾) に面しており、西はコートジボワール、東はトーゴ、北はブルキナファソに国境を接している。国土の殆どが低地のため、標高は最高でも885mである。

II・4 気候は、熱帯の国であるが、南部は熱帯雨林気候、首都アクラは乾燥した赤道気候である。また、ガーナ第2の都市クマシは、湿気が多い半赤道気候に属する一方、北部は亜熱帯高圧帯に近づくため、雨季と乾季が明確なステップ気候となる。地方によって違いはあるが、気温は年間を通じて21度から32度くらいで、平均気温は25度以上になる。雨季と乾季の2つの季節があり、雨季は、3月から10月、乾季は11月から2月である。雨季の間でも雨が降る時間帯は限られており、一日中雨が降り続くことはほとんどない。

II・5 共通言語は英語である。

II・6 主なエスニック・グループは、アカン族、モシ・ダゴンバ族、エウエ族、ガ族、グルマ族、グルシ族、マンデ=ブサンガ族などがある。

II・7 宗教は、キリスト教、イスラム教、そして伝統的な宗教がある。

II・8 略史 (特に近代以降の政治・経済) は、以下である。19世紀半ばから「英領ゴールド・コースト」としてイギリスの植民地化が進

んだ。第二次世界大戦以降、クワメ・エンクルマを筆頭とした独立運動が盛んになる。1956年にエンクルマによって自治政府が成立し、翌1957年には英領トーゴランドと合わせ、ガーナ共和国として独立国となった。何度かの政変を経た後、1980年代にジェリー・ローリング空軍大尉の政権のもとで経済発展を遂げる。以後、武力を一切ともなわない民主的な選挙によって政権が選ばれており、政治的に安定した国家として今日に至っている。現在のガーナは農業や鉱業などの一次産業が大きな位置を占めており、中でもカカオの生産量は世界有数である。2007年には、油田が発見されており、さらに情報化や都市化が急速に進展していることもあり、今後の成長が期待されている。

II・9 舞踊の現状は、以下のとおりである。ガーナの舞踊の現状に触れる前に、アフリカ全般に関していえば、舞踊は、生活に密接に結びつき、祭礼や儀礼の中で宗教的な意味を有し、また地域を統合する機能も有していた。舞踊による動きの反復、その律動性のもたらす陶醉感、他の人々と共に踊ることによって得られる一体感やコミュニケーションの深まりは、舞踊を娯楽としても生活に定着させ、宗教的・呪術的な目的が失われた今日においても、舞踊は、踊り楽しむ形式として変化・発展させ脈々と伝承されている。そのような舞踊は、もともとはコミュニティで親から子へ伝承されてきた。しかしながら、今日のガーナ (特に都市) では、その伝承法がくずれつつある。舞踊の演者としてプロの舞踊家が誕生し、学校において、教師やプロの舞踊家が舞踊を教えている。今回招聘したアゾロオ民族舞踊団も、そのような活動を行っているプロの舞踊団のひとつである。また、結婚式、お祭り、葬式などの様々な機会に

現代的にアレンジされた踊り、例えば、ハイライフ³⁾などが踊られている。つまり、宗教的な意味や地域性を有していた舞踊は、現代的にアレンジされ、しかも娯楽として踊られる⁴⁾ようになり、近隣の他民族の舞踊もガーナの伝統的なものとして踊られている。

Ⅲ 民族舞踊公演の実際

2011年11月19日14:00~16:10、宇治市文化センター・小ホールで開催したアゾルオ・ガーナ民族舞踊団日本公演2011「カカオの国からやってきたドラムとダンス」Adzorwo Music and Dance Ensemble Japan Tour 2011に関して、以下の点から報告する：1. 公演準備、2. 滞在日程、3. 招聘団員、4. 公演進行・舞踊演目、5. 公演評価、6. 参考資料（舞踊公演のプログラム⁵⁾）。

Ⅲ・1 公演準備

2011年春、遠藤は、宇治市文化センター館長及び関係者にセンター主催によるガーナの民族舞踊公演開催の可能性を打診した。センターの関係者が審議をした結果、舞踊公演は、センターの主催事業として開催することが可能になった⁶⁾。その後、エチオプス・アート日本委員会は、公演のための本格的な準備を開始した⁷⁾。組織・団体レベルでは、宇治市、宇治教育委員会、宇治国際交流クラブ、NPO 法人宇治大好きネット、アサラトフリーク「鴨印振族」、ストーリー・ダンス・ビビット、ビビッド・キッズクラブ、和太鼓『渦』などへ公演の後援、協力、賛助出演、観客動員を依頼した。個人レベルでは、ガーナと舞踊に興味・関心をもち様々な活動を行っている研究者、舞踊家、音楽家などに

観客動員を依頼した。2011年8月、遠藤と相原がガーナへ赴き、約2週間に渡り、民族舞踊公演に関する以下の準備を開始した⁸⁾：1. 候補者の面接、2. 招聘団員の確定⁹⁾、3. 招聘団員への聞き取り調査（経歴と舞踊歴など）、4. マネージャーと公演内容の基本的な打ち合わせ。さらに、ガーナの以下の学校からも助成をしてもらえることになった：Ark International Academy, Thilda Memorial School, St. Johns Junior High School, Tiny Angels Academy, St. Francis Xavoior School, Accra New Town 6 & 8 Primary School。そして9月、帰国した後は、以下を行った：1. 団長とメールによる公演内容の確認、2. 宇治市文化センタースタッフとの打ち合わせ、3. パンフレットやポスターの作成、4. マスコミなどへの情宣活動、5. チケットの販売依頼、6. アナウンス原稿の執筆、7. 進行案（照明と音響）の作成、8. 舞台監督・島彩乃（京都女子大学大学院生）との打ち合わせ。

Ⅲ・2 滞在日程

2011年11月13日から20日まで、アゾルオ民族舞踊団を日本へ招聘し、以下の活動を行った（表1参照）。前述したとおり、舞踊公演の目的の1つは、ガーナの文化的多様性を日本各地で紹介することであるが、実際に紹介した地域は、宇治市、京都市、野洲市（滋賀県）の3地域であり、場所は、劇場だけではなく、小学校の体育館や大学の教室やホールにおいて、劇場的な空間と想定して公演を行った。

Ⅲ・3 招聘団員

アゾルオ・ガーナ民族舞踊団は、レイモンド・クロッティ（Raymond Clotney）を団長に

表1 滞在日程

月 日	時間	場 所・内 容	対 象	料 金
11月13日	17:50	日本到着		
11月14日	14:00	立命館大学：ガーナの舞踊と自然・社会・文化の紹介	学生	無料
11月15日	10:00	洛中小学校：ガーナの舞踊と自然・社会・文化の紹介 (ようこそ、アーティスト派遣事業の一環)	小学生・教員・ 保護者	無料
11月16日	13:30	立命館小学校：ガーナの舞踊と自然・社会・文化の紹介	小学生・教員	無料
11月17日	16:30	立命館大学：ガーナの舞踊の紹介とストリートダンスの 比較	学生・教員	無料
11月18日	13:50	北野小学校：ガーナの舞踊と自然・社会・文化の紹介	小学生・教員	無料
11月19日	14:00	宇治市文化センター・小ホール アゾロオ・ガーナ民族舞踊公演	一般人	大人1,000円 中高生500円
11月20日	22:50	京都観光、日本出国		

(筆者作成)

した、民族舞踊のプロ集団である（アゾロオとは、ガGa語で「私たちは祝福されている」の意味）。来日した団員は、11名（当初の計画では14名）。内訳は、男性音楽家7名、男性音楽家兼舞踊家2名、女性舞踊家2名で、年齢は20歳代から30歳代である。アゾロオ・ガーナ民族舞踊団は、伝統的なガーナの舞踊を保存、継承、発展させようとしており、アクラの小学校の子どもたちに舞踊を教え、ガーナや外国での様々な祭りやイベントにおいて舞踊を披露している。また舞踊団員は、ガーナの様々な地域に赴き、伝統的な舞踊の習得や、教育および興業などの活動も行っている。

Ⅲ・4 公演進行・舞踊演目

舞踊公演では、男性添乗員1名と女性旅行者1名が、ガーナへ旅行するという想定で公演の進行を行った。添乗員と旅行者は、旅行にでかけるような服装で、旅行の本などをもって舞台上に登場し、1. 映像によるガーナの都会と田舎の様々な場面の紹介 2. 舞台上踊られる舞踊

の解説を行った。また公演当日は、J.Abbeのステージマネージメントにより、舞踊公演にふさわしい化粧と衣装の着付けが行われた。

公演本番の所要時間は、第1部約60分、休憩10分、第2部60分であり、上演された演目と解説は、以下である。

第1部：1. タカイ 2. ガフ 3. クパン
ロゴ 4. ビデオ映像によるガーナの紹介1 5. ソコデ 6. ジャンペパーカッション 7. アサラトフリーク「鴨印振族」 8. クペレ

第2部：1. ナグラ 2. ビビッド・キッズ
クラブ『New trial!!! from LA to New York』ストリート・ダンス・ビビッド『Just do it!』 3. バワ 4. ビデオ映像によるガーナの紹介2 5. 和太鼓「渦」『木遣太鼓』『屋台ばやし』『彩(いろどり)』：ガーナの太鼓と和太鼓とのコラボレーション。

また、舞台開始から終了までのアナウンス原稿、舞台進行の詳細は、以下である（表2参照）。



写真1 ジャンベパーカッション



写真3 アサラトフリーク「鴨印振族」




写真2 パワフルな演奏



写真4 舞踊：クベレ

表2 舞台進行

場面	添乗員 (男性)	旅行者 (女性)	位置と照明
第1部開始  飛行機の映像	本日は、宇治市文化センター主催の秋のガーナ旅行にご参加いただきありがとうございます。ガーナは、西アフリカにある熱帯の国、カカオの国、グリニッジ標準線が通っている国。そして日本人医師野口英世がガーナへ行き、黄熱病の研究をしたことでも有名ですね。	楽しそうにうなずきながら歩く。 ガーナへ旅行するのは初めてなので、今からわくわくどきどき。	開演前に客席前中央に座る。ベル後、客電暗転。男女が話始めたら、人物にスポット。男女、話しながら、舞台下手へあがる。男性は舞台下手に上がり、観客へ話しかける。女性は上手へ。

	<p>では、みなさん（観客へ見て）、これから飛行機が離陸しますので、携帯電話、写真の電源を切っていただきますようお願いいたします。</p>	<p>日本を出発してから、およそ20時間。やっと、ガーナにつきましたね。</p>
<p>日本からガーナへ移動</p>		<p>では、旅の疲れを癒すためにガーナの舞踊をご覧いただきたいと思います。</p> <p>1番目は、タカイ。これは、ノーザン州に伝わる戦いの舞踊です。</p> <p>2番目は、ガフ。ボルタ州に伝わるレクリエーションなどとして踊られるものです。</p> <p>3番目は、クパンロゴ。グレートアクラ州の踊りで若者に人気があります。では3曲メドレーでお楽しみください。</p>
<p>首都アクラの映像</p>		<p>ガーナの生活を少し覗いてみましょう。（映像を見る）</p>
<p>首都アクラの映像（続き）</p>	<p>第1部途中</p> 	<p>すごい迫力！旅の疲れが飛んでいきました。</p>
 <p>ガーナの首都、アクラに到着する</p>	<p>日本から約1日かけて、首都アクラに到着します。</p>	<p>都心部には近代的な建物が多くて日本とあまりかわらない風景ですね。</p>
<p>首都アクラの映像</p>	 <p>ここは首都アクラの旧市街、ニュータウン地区</p>	<p>ここは、旧市街ですね。多くの商店や露天が立ち並んでいて、そこでは衣類、食料品、雑貨などが販売されています。</p>
<p>旧市街</p>		



このスタンドには
24時間営業のコンビニもある
ガソリンスタンド



ここは旧市街の裏通り



ローズさん一家の店
どの店もこの程度の大きさである



店の前には看板には
携帯電話やネット会社のマーク



ガーナの情報は急速に進んでいて
このような店が数多くある



ここは、日本でいうところの
ネットカフェ

いくつかのガソリンスタンドには、24時間営業のコンビニエンスストアが併設されています。

はい。旧市街のライフスタイルも、日本に近いと言えますね。ここは旧市街の裏通りです。

ローズさん一家のお店です。小さいですが、品ぞろえはいいですよ。

実は、旧市街でも大きな変化が起きている。この店の前にある看板を見てください。携帯電話やネット業者のマークがありますね。このマークのある店では、携帯やネットの契約ができるのです。

ガーナでは、情報化が急速に進んでいるのです。

これは、日本でいうところのネットカフェです。パソコンを使える若者にとって、ネットは重要な交流手段になっています。

え、そうなんですか？

いかにも下町といった雰囲気。小さなお店が多いですね。

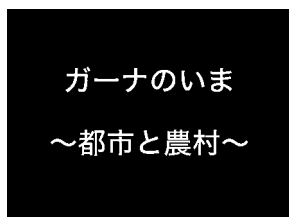
家族みんなで経営してるんですね。

よく見ると、ほとんどのお店にマークがありますね。

このあたりの事情も、日本と同じなんですね。

 <p>旧市街にある中学校</p>			
<p>中学校と練習場</p>			
 <p>この中に、舞踊団の練習場がある</p>	<p>さて、ではまた舞踊をお楽しみいただきましょう。次にご覧いただきますのは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソコデ。セントラル州に伝わるもので、エンターテイメントとして踊ります。 2. ジャンベリズム。ジャンベは、西アフリカの他の国の太鼓ですが、ガーナでも演奏されています。 3. アサラトフリーク。アサラトは、西アフリカ発祥の民族楽器ですが、日本でその演奏を独自に発展させました。 4. クペレ。グレートアクラ州に伝わる医療のための踊りです。では、どうぞ。 		
<p>練習風景</p>			
 <p>この踊りは準備運動のためのもの</p>			
<p>練習風景続き</p>			
<p>第1部最後カゲアナ</p>		<p>これより10分間の休憩をいただきます。</p>	
<p>第2部開始</p>	<p>ガーナの旅も後半になりました。</p> <p>次にご覧いただきますのは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナグラ。アッパー・イースト州に伝わる舞踊で、ストリートダンスのような動きもある舞踊です。 2. ビビッド・キッズクラブによります『New trial!!! from LA to New York』, そしてストリート・ダンス・ビビッドの『Just do it !』。 3. パワ。アッパーウエスト州に伝わる収穫祭の舞踊です。では、続けてご覧ください。 	<p>時間が過ぎるのはあっというまです。</p>	<p>ベル後、下手に登場、人物にあかり。</p> <p>下手にはける</p>

第2部途中



タイトル



様々な場面で伝統的な楽器が使われている

音楽団



首都アクラの中心地、オス地区へ

オス地区



日本でおなじみのファーストフード店もある

ファーストフード店



ここはバスターミナル

バスターミナル



首都アクラから2時間以上かけて郊外の農場に向かう

郊外に向かう映像

さて、ガーナの都心部と農村の様子を見てみましょう。

ここは独立記念公園です。この日はイスラム教の断食明けのお祭りが開催されていました。

いまでもガーナでは様々な場面で伝統的な楽器が使われています。

独立記念公園を出て首都アクラの中心地、オス地区へ行ってみましょう。ここには近代的な建物や外国企業のオフィスが建ち並んでいます。

日本でおなじみのファーストフード店もありますよ。

そうです。メニューの種類は日本ほど多くありませんが、値段は日本とほとんど変わりません。

次に、ここはバスターミナル。ここからガーナ第2の都市クマシや郊外に行くことができます。

アクラから郊外のカカオ農園に行ってみましょう。

お祭りの会場には、音楽団もいるんですね。

あ、ケンタッキーフライドチキン！



実際に太鼓づくりを体験

太鼓工房



カカオ農場のある農家に到着

農場



ナイフで割って中身を取り出す

収穫の様子



このような色になるまで干した後
出荷される

カカオを干す映像
映像暗転～練習風景



第2部最後カゲアナ

途中、太鼓の工房があったので、立ち寄ってみました。実際に太鼓づくりを体験してみますと、木を削るのは、とても難しいんですね。

さて、カカオ農場のある農家に到着しました。

収穫したカカオの実をナイフで割って中身を取り出し、このような赤色になるまで干した後に出荷されます。

さて、ではまた舞踊をお楽しみいただきましょう。次にご覧いただけますのは、和太鼓「渦」による『木遣太鼓』『屋台ばやし』『彩（いろどり）』ガーナの太鼓と和太鼓とのコラボレーションです。

ガーナは世界有数のカカオ産地ですね。

こうしてカカオは、日本でもおなじみのチョコレートやココアなどになるんですね。

下手にはける

本日は、御来場いただきありがとうございました。

Ⅲ・5 公演演目

上記のアナウンス原稿に沿って、ガーナ民族舞踊団が演じた舞踊演目について、もう少し詳細に説明したい。

1. タカイ Takai

ノーザン州に伝わる戦いの舞踊。戦いの中、味方どうして争いが起こったように見せかけて敵をだましたという物語が、その由来となっている。この舞踊は、新しい酋長が就任する時や、男性が女性の関心を引こうとする際に踊られる。

2. ガフ Gahu

ボルタ州南部の都市アンロ Anlo 周辺に伝わる舞踊で、もともとはナイジェリアが起源である。舞踊家たちは輪になり、決められた動作で踊る。この舞踊にはレクリエーションの意味合いもあるが、結婚式など様々な場面で踊る。ベニン大学の J.Abbe によると、この舞踊には、ナイジェリアの舞踊の特性、あるいは西アフリカの舞踊の特性がみられる¹⁰⁾、とのことである。

3. クパンロゴ Kpanlogo

グレーター・アクラ州の、ガ族の舞踊である。もともとはガーナ南方に伝わる舞踊だったが、1960年代、ガ族の漁師によってガーナに持ち込まれた。今日でも、ガ族の若者に人気がある。

4. ソコデ Sokode

セントラル州に伝わる舞踊で、何組かの男女が輪になって踊り、男女のコミカルなかけあいを見ることができる。男性舞踊家が女性の衣装を着るのもこの舞踊の大きな特徴である。

5. クペレ Kpele

グレーター・アクラ州の、ガ族の舞踊である。今回の公演では、病気の患者を癒すという物語になっている。もともとはガ族の医療のた

めの舞踊であり、病気の患者に力を与えることによって、病気に打ち勝つことを目的として演じられた。

6. ナグラ Nagila

アッパー・イースト州に伝わる、美しくて力強い舞踊の1つである。美しい動作に加え、途中にはブレイクダンスのような動きもみられる。

7. バワ Bawa

アッパー・ウエスト州に伝わる、収穫祭のための舞踊で、神々や祖先に対し、その年の収穫を感謝すると共に、翌年のより豊かな実りを祈る。

Ⅲ・6 ガーナの楽器

ガーナでは、様々な楽器が演奏される。ここでは、1太鼓、2太鼓以外の楽器を紹介する。

6・1 太鼓

6・1・1. クパンロゴ・ドラム (Kpanlogo Drum)。「クパンロゴ」という演目で演奏する。今回の公演では胴体部が約60センチのものを使用するが、大きいものでは約1.5メートル以上にもなる。胴体部分はオドム ODUM の木、ヘッドには牛の皮が使用される。

6・1・2. ソゴ・ドラム (Sogo Drum)。各演目において、リーディングドラマーが使う。椅子に座ったドラマーは、太鼓を両足ではさみ、片面を両手で叩く。材料は、オドムの木、アンティロープ (レイヨウ：ウシ科の哺乳類) の革である。

6・1・3. アシビ (Ashivi)。リーディングドラマーをサポートする他のドラマーが使う。材料は、オドムの木と牛の革である。

6・1・4. カガウ (Kagaw)。ドラマーは、基本のリズムパターンを演奏する際に演奏す

る。アシビより一回り小さい太鼓で、オドムの木とアンティロープの革で作られる。

6・1・5. クロボト (Kroboto)。おもに演奏をサポートする役が使う太鼓だが、演目によっては、リーディングドラマーが演奏に使うこともある。大きさはアシビとカガウの中間くらいで、材料はオドムの木とアンティロープの革である。

6・1・6. ブレケテ (Brekete)。ひもを用いて肩から下げ、両面を叩いて演奏する。リーディングドラマーもサポート役も使用する太鼓で、立った状態で演奏するため、演奏しながら踊ることもできる。材料として、オドムの木と、大きな角を持った山羊の革を使う。

6・1・7. ジンベ (あるいはジェンベ Jembe)。もともとは他の西アフリカ諸国 (マリ共和国説とギニア共和国説がある) における伝統的な太鼓だが、今日ではガーナでも使われている。メインの演奏者とサポート役の双方が使用し、演目によって、曲中でメインとサポートの役割が入れ替わる場合もある。材料は、チダ Tida の木と山羊の革である。

6・2 太鼓以外の楽器

6・2・1. ガラガラ (舞踊団ではマラカスと呼んでいる)。日本でもよく知られている楽器だが、ガーナのもは、その形に特徴がある。胴体には、カラバーシュ (ヒョウタン) のように中が空洞になっている植物の実を乾かしたものをを使う。その表面を、ひもで網状に編まれたタカラガイで覆う。これを振ると、胴体にタカラガイが触れて音が鳴る。演奏のタイミングを取るために使われる。

6・2・2. ガコギ (Gakogui)。鉄でできた、小さな鐘のような楽器である。演奏のタイミン

グを取る役のうち、メインとなる奏者が使用する。

IV 公演評価

本公演は、どのように評価できるのか、以下の項目を踏まえて検討する：1. 公演の対象者はだれか、2. その対象はどのようなニーズを持っていると考えるのか、3. 目的に迫る具体的な公演内容は何か、4. そのための資源は何か、5. どのような点ができたら目標が達成できたと考えるのか¹¹⁾。

では、その詳細を記述していく。

IV・1. 公演の対象者は、ガーナの舞踊や音楽、あるいはアフリカそのものに興味のある一般市民である、ととらえた。

IV・2. その対象者は、ガーナの民族音楽、ストリートダンス、ガーナの太鼓と和太鼓への興味があるが、今日のガーナにおける人々の生活は、あまり知らないのではないかと考えた。

IV・3. 前述した公演目標に即して考えると、第1の目標であるガーナの文化的多様性を日本各地で紹介することに関しては、舞台でガーナの様々な地域の舞踊を披露しようとした。第2の目標であるガーナと日本との国際・文化交流、相互理解、平和友好の一助に資するに関しては、公演前日、団員とアサラト実践者や和太鼓演奏者と面談や演奏実践を行い、公演時には、舞台で今日のガーナ (都会と農村) の生活の映像を交えて解説し、ストリートダンスを踊ることによって、その共通点や相違点を見比べてもらうようにし、公演終了後は、ロビーにおいて団員と市民の交流を行った。第3の舞踊の新しい隆盛に貢献することに関しては、ガーナ

の太鼓と和太鼓のコラボレーションを行うことによって、新しい表現に貢献しようとした。

Ⅳ・4. そのための資源は、宇治市文化センターの関係者、宇治国際交流クラブ、アサラトフリーク「鴨印振族」, 「ビビッド・キッズ・クラブ」, 「ストリート・ダンス・ビビッド」和太鼓「渦」, 立命館大学, 京都文教大学, 京都女子大学の学生など, である。

Ⅳ・5. 達成感は、以下の点から考えてみる。観客数をみてみると、宇治市文化センター・小ホール（固定席389席, 補助席5席）が満員になり、立ち見が出るほどであった。また、最後の演目では、観客全員によるスタンディングオベーションとなった。宇治市文化センターの関係者によると、公演当日、雨天であったにもかかわらず、立ち見がでたことと観客全員によるスタンディングオベーションは、これまでに経験したことがない、ということであった。公演終了後、ロビーで行った交流の際に多くの観客が、以下のような感想を述べていた。1. ガーナの舞踊そのものはいうまでもなく、アナウンス解説と映像によってその踊りの背景や人々の生活などがよく理解できた。2. アサラトの演奏が日本で発展したことは興味深い。3. ストリートダンスとガーナの舞踊の共通点や相違点がわかっておもしろい。4. 和太鼓とのコラボレーションは、これまでにない表現であり、迫力があつた、など。

V まとめ

日本ではアフリカの民族舞踊に直接触れる機会が少ないという現状を踏まえて、遠藤と松田は、舞踊そのものを紹介しようとボランティア組織であるエチオプス・アート日本委員会を組

織し、ガーナの民族舞踊公演を計画した。本稿では、2011年11月実施したアゾルオ・ガーナ民族舞踊団日本公演2011を検討した。その結果、舞踊や音楽を実際に聴き、観て、感じることににより、お互いの国際・文化交流、相互理解、平和友好に役立てることができたと思われる。しかし、今後解決すべき課題として以下のものが生じた：1. ガーナの様々な民族舞踊と文化の多様性…多様性を追求したが、公演ではガーナの限られた地域の舞踊しか紹介できなかった。2. 日本各地における上記1の紹介…日本各地とはいっても、京都、宇治、野洲という限られた地域でしか紹介できなかった。3. 舞踊家と音楽家、男女のアンバランス…団員の都合により、バランスよく招聘することができなかった。

おわりに

ガーナの民族舞踊団を招聘し、ガーナの舞踊と自然・文化・社会を紹介しながら、舞踊公演を行うことによって、日本とガーナの国際・文化交流、相互理解の一端を担いたいと考えた。その結果、舞踊公演は、目的に即して実践できたと考えられる。今後は、他の民間あるいは行政との連携をはかりながら、アフリカの公演活動を実施していきたいと思っている。

最後に、本舞踊公演の実施に際して、協力・協賛・公演をしてくださった以下の方々により御礼を申し上げます。（公益財団法人）宇治市文化センター、日本学術振興会、立命館大学、ガーナの学校（Ⅲ・1公演準備参照）、宇治市・宇治市教育委員会、宇治国際交流クラブ、NPO 法人宇治大好きネット、岩田雅義氏、一般財団法人京都ユースホステル協会

注

- 1) 当初は、エチオピアの舞踊のみを対象にしたため、エチオプスという表現を用いた。しかし、アフリカの国境線は、文化の国境線とは一致しないという観点から、ケニアの舞踊と社会を紹介する公演も手掛け、徐々にアフリカの他の国も対象にして公演活動を行っている。また、相原は、2011年より委員として活動を行っている。
- 2) 国際交流基金編『国際交流基金年報』や全日本舞踊連合編1977『舞踊年鑑』などの資料をもとにすると、日本ではアフリカの民族舞踊公演が行われていない、と考えられる。
- 3) カリブやアメリカ黒人の音楽の影響のもと、「パームワイン音楽」とプラスバンドを母体に発展したガーナのダンス音楽（柘植元一他編2003：38, 129）。
- 4) 舞踊が娯楽として踊られる、つまり世俗化に関しては、以前から研究者が指摘しているが、例えばアフリカの舞踊研究者 Hanna, Judith L. は、1965年に述べている。
- 5) プログラムは、大人用と子ども用を作成したが、前者は、本論文と重複するため、子ども用プログラムを掲載する。
- 6) 松田が、当該センターの理事であるため、比較的審査がスムーズにいったと考えられる。
- 7) 経済的な面では、当該センターの公演助成金の他に、日本学術振興会基盤研究(B)「モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踊に関する総合的研究」研究代表者：遠藤保子や立命館大学研究国際推進の研究助成金、立命館大学の授業運営費、「ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業」謝金などを利用した。
- 8) 2009年秋、日本学術振興会ひらめきときめきサイエンス採択事業『踊りって何だろう～アフリカの踊りを科学する～』責任者：遠藤保子の際にガーナの舞踊団を日本へ招聘し、子どもたちに研究の成果をガーナの舞踊を紹介した。その際に得られた知見も本公演の礎になっている。

る。

- 9) アフリカの団員が、日本のビザを取得するためには、以下の書類が必要になる：1. 身元保証書, 2. 招聘理由書, 3. 日本での滞在スケジュール, 4. フライトスケジュール, 5. フライトの領収書かフライトチケット, 6. 経済負担書, 7. 身元保証人の在職証明書, 8. 身元保証人の収入証明書等
- 10) 2011年11月17日 立命館大学にてパーソナルコミュニケーション。
- 11) (財)京都市ユースサービス協会が行っている、舞台芸術をはじめとする様々な表現活動の事業評価項目をもとにした。

参考文献

- Alexander Akorlic Abordoh 1994 *Studies in African Music* New Age Publication Ho Accra ,Ghana
- Hanna, Judith L. 1965 “Africa’s New Traditional Dance” in *Ethnomusicology* 9 pp.13-21
- Isaac Richard Amuah 2002 *Music and dance for Teacher Training colleges* Kramad Publishers Lomited Cape Coast, Ghana
- 遠藤保子 1998 『舞踊における「劇場」的空間の変遷』財団法人水野スポーツ振興会研究助成金報告書 全146頁
- 遠藤保子 2005 「アフリカの舞踊研究」日本体育学会編『体育学研究』第50巻第2号 pp.163-174
- 遠藤保子・松田 凡 2011 「劇場におけるアフリカの民族舞踊」立命館大学産業社会学会編『立命館産業社会論集』第47巻第1号 pp.27-48
- 国際交流基金編 1978 『国際交流基金年報 昭和53(1978)年度版』～国際交流基金編 2008 『国際交流基金年報 2007年度』, 出版：国際交流基金, 東京
- 柘植元一・塚田健一編 2003 『はじめての世界音楽』音楽の友社, 東京
- 全日本舞踊連合編 1977 『舞踊年鑑』1巻～全日本舞踊連合編 2010 『舞踊年鑑』34巻, 全日本舞踊連合発行, 東京

参考資料 舞踊公演プログラム

ごあいさつ



みなさんは、チヨコレートは、何から作られるのか、知っていますか？それは、カカオです。ガーナは、カカオの産地で、しかも日本に輸入されているカカオの目撃が、ガーナ産なのです。最近の1000円札に描かれている新口英世という入を記しているでしょうか？



ガーナには、新茶葉という新茶葉があります。この新茶葉に比べると、とても高い新茶葉が出て、大衆にいたることがあります。この新茶葉を語る新茶葉の物語のために、ガーナへ来たのが、新口英世なのです。このように、日本とガーナの間に、さまざまなかわりがあります。しかし日本では、ガーナの新茶葉や新茶葉に集まる機会がほとんどありません。アフリカ・ガーナ大陸舞踊団による新茶葉や新茶葉をみて、いっしょに楽しみましょう。そして、ガーナの入々の暮らしを知り、理解を深めましょう。



おとも踊りの説明

タカイ Takai

クレタ州に住む舞踊の踊りです。踊りの中で前方を向いて踊りながら、腰を打って、足を打って、そして、腰を打って、足を打って、というリズムで踊ります。

ガフ Gahu

ホルタル州に住む舞踊の踊りです。もともとナイジェリアの踊りです。踊る人たちは踊りながら、決められた動作で踊ります。この踊りは楽しいためのものですが、それ以外に、競技などでも踊られます。

クワンロク Kwankwoko

クレタ州に住む舞踊の踊りです。1980年代に、ホルタル州の若者によって作られました。いまでも若者に入賞されています。

ソコデ Sokode

セントラル州に住む舞踊の踊りです。踊る人々の入賞の踊りになりました。踊る人々の入賞の踊りです。この踊りの特徴です。



クベレ Kpele

クレタ州に住む舞踊の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。

ナクラ Nagla

アッバ・インディ州に住む舞踊の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。

バワ Bawa

アッバ・インディ州に住む舞踊の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。

ジャラ Jara

セントラル州に住む舞踊の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。踊る人々の入賞の踊りです。

アフリカ・ガーナ民族舞踊団日本公演 2011
「カカオの国からやってきたドラムとダンス」

みんな、ぞくぞくぶようだんにつぼんこうえん



ガーナ共和国のアロフィール

ガーナ共和国(旧トガー)は、アフリカ大陸の西、赤道から北へ750キロメートルのところにあり、国土から15000キロメートルも離れています。国土は約24万平方キロメートル(日本の約3分の1)、人口は、2010年の国勢調査によると、およそ2400万人です。気候は、地域によって異なりますが、気候は1年とおおむね同じです。また、農業が主産業で、農産物の輸出が主産業です。また、農業が主産業で、農産物の輸出が主産業です。また、農業が主産業で、農産物の輸出が主産業です。

★
楽譜紹介

がっつきようかい
ガーナでは、古くからさまざまな楽器が演奏されてきました。中でも大衆は鐘鼓です。大抵では50センチメートルから約1.5メートル以上におよぶものがあります。胴体の部分は木でできていて、胴の部分には牛やアンチロペの皮が張られています。
演奏の技法は、左手の指によってちびくります。右手で打つて大鼓を演奏しては、片足を床や椅子(木)で叩くのが、最も一般的な演奏方法です。演奏を聞くものもありません。
最も有名な大鼓は、床から床まで、前後を叩くものがあります。
大鼓以外では、鼓でできた小鼓のような「ガコヤ」や、ヒョウタンと鼓を使って音を出す「ガラガラ」を演奏します。

★
今日のアメリカと踊り

アメリカでは、音楽や踊りが、どのお国から来ても受け入れられています。アメリカの人たちは、積極的に文化を吸収することや、さまざまな音楽を併用し、そして自分たちが楽しむために、歌ったのと同じように踊ります。音楽や踊りは、アメリカの人たちの生活にとって、欠かせないものなのです。
踊りは、親から子どもへ、子どもから孫へ、伝えられてきました。しかし、アメリカの社会では、新しい文化がたくさん入ってきています。さまざまな文化によって、伝統的な踊りが廃れる機会が少なくなりました。またいくつかの地域では、伝統的な踊りが、なくなりつつある状況も出てきています。
そこで、アメリカの国境では、踊りを支える活動が盛んになるといった取り組みをはじめたところもあります。また、国立舞踊団を創設することで、伝統的な踊りの伝承を助けている国もあります。

今日では、モーションキャプチャを利用して、デジタルな動きをすることができるようになりました。(写真1)モーションキャプチャを使うと、踊りのいろいろな高さから撮ることができ、また、CGなどを使い、何層でも撮影することもできます。(図1.2)



図1: モーションキャプチャ

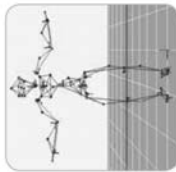


図1: パソコンで再現される踊りの一瞬



図2: CGの一瞬

★
滞在日程

- 11月14日 立命館大学・以学館 (京都府)
 - 11月15日 洛中小学校・体育館 (京都府)
 - 11月16日 立命館小学校・体育館 (京都府)
 - 11月17日 立命館大学・体育館 (京都府)
 - 11月18日 北野小学校・体育館 (京都府)
 - 11月19日 宇治市文化センター・小ホール (宇治市)
- 開演時間(11月19日): 「ヒビッド・キッズ・クラブ」 [ストリート・ダンス・ヒビッド]、
「ヒビッド・キッズ・クラブ」 [舞台演劇] (ゆもじしんそく)
 助 演: (公益財団法人) 宇治市文化センター、日本舞踊舞臺、立命館大学、AFK INTERNATIONAL ACADEMY、
THILDA MEMORIAL SCHOOL、ST. JOHN'S JUNIOR HIGH SCHOOL、TINY ANGELS ACADEMY、
ST. FRANCIS XAVIOUR
 後 援: 宇治市、宇治市教育委員会、宇治演劇交流クラブ、NPO法人宇治大好きネット
 協 力: 立命館大学、京都府舞臺、一般財団法人京都市文化センター、宇治演劇交流クラブ、NPO法人宇治大好きネット
 担 当: エキオアズ・アート日本委員会
 印 刷: 6000部印刷
 発 行: 2011年11月 エキオアズ・アート日本委員会

★
メンバー紹介



クロッキー・ライモン・アトカエ
KUROKI RYOMA
(京都府・宇治市)



オカノ・ライモン・アトカエ
OKANO RYOMA
(京都府・宇治市)



オチ・ヨコ
OCHI YOKO
(京都府・宇治市)



テツ・エツハラ・パディ
TETSU ARAHAMAM PADDY
(京都府・宇治市)



エル・アラワ・トーフィク
ERU ALAWA TAHIRIK
(京都府・宇治市)



オケレ・ウィリアム
OKERE WILLIAM
(京都府・宇治市)



オマー・ゲフイ
OMAR GEFFEY
(京都府・宇治市)



バンガ・ジョン
BANGA JOHN
(京都府・宇治市)



ヨコ・ヨコ
YOKO YOKO
(京都府・宇治市)



エリ・エリ
ERI ERI
(京都府・宇治市)



ヨコ・ヨコ
YOKO YOKO
(京都府・宇治市)



松田 洋行
MATSUDA HIROYUKI
(京都府・宇治市)



ビソン・エマニュエル・コフィ
BISSEMANUEL MAKI
(京都府・宇治市)



レンガン・エマニュエル・コフィ
LENGANEMANUEL MAKI
(京都府・宇治市)



相原 泰
AIHARA Sumaru
(京都府・宇治市)



ルミ・アニータ
RUMI ANITA
(京都府・宇治市)



スワレ・スレマヌ
SWARE SULEMANU
(京都府・宇治市)



相原 泰
AIHARA Sumaru
(京都府・宇治市)

Note

African Folk Dances Performed in Japanese Theater : Case Study of the Ghanaian Adzorwo Music and Dance Ensemble Japan Tour 2011

ENDO Yasuko *

MATSUDA Hiroshi **

AIHARA Susumu ***

Abstract: Considering that Japanese audiences have few opportunities to be directly exposed to African folk dance, we set up a volunteer organization named the Aethiops Art Japan Committee to introduce African dance to Japanese audiences by holding public performances in Japan. Its objectives are to 1) introduce the cultural diversity that Africa enjoys to Japanese people; 2) help facilitate international cultural exchange, mutual understanding, and peaceful and friendly relations between Africa and Japan; and 3) contribute to revitalizing African folk dance. We organized events with the key concept of providing “firsthand experience with African dance” — or seeing, knowing and experiencing African dance and the socio-cultural background behind such performance. This paper examined the Ghanaian Adzorwo Music and Dance Ensemble performance on Nov. 19, 2011 at Uji Bunka Center in Uji City, Japan. As a result, it was found that Japanese people’s exposure — listening, watching, and feeling — to African dance and music performances with the appearance of guest artists “Kamozirushi-Shinzoku,” and “Street Dance Vivid,” the Japanese drumming group “Uzu” has helped promote international cultural exchange, mutual understanding, and peaceful and friendly relations between Ghana and Japan.

Keywords: folk dance, Ghana, international cultural exchange, mutual understanding

* Professor, Faculty of Social Sciences, Ritsumeikan University

** Professor in the Department of Cultural Anthropology, Kyoto Bunkyo University

*** Part-time Lecturer, Ritsumeikan University